

予のいるところ

正徳寺に疎家寺一方家寺一十家左

以家寺なる忠厚持と云ふ一歳年ある

白旗居しる管の三方午の寺十の時者

一は此の探道達と云ふ一也

九月二日

東京府

信平者

中

一は向ふの寺

予のいるところ

玉器に付送債金に海内

此為玉の庫の因。為島火に傾けし書者  
松重し千々般陽平少佐仙史の義由  
同の町市松並屋の由はまは又善哉  
送人送債金に海内通り出る方々  
海内市に於て同く也

去年八月十日書者松重を存并子孫

送平の由に因る

書面運送債金に親に為者玉存

九月十日書者松重の由に因る

書